

日本農業遺産認定!!

さあ! わたしたちの行き先は、 南あわじ市だ!



～暮らしのサポートします～

マイホーム取得補助
新築**200**万円
空き家バンク登録物件
100万円
※子ども加算30万円/人

移住支援補助
お試し移住者
最大**30**万円
移住者
最大**50**万円

空き家
改修等補助
改修費
100万円

島外からの
移住保育士支援
一時金**30**万円
家賃補助5万円/月

0歳～
中学3年生
医療費
無料

子育て
学習・支援
センターが
充実!



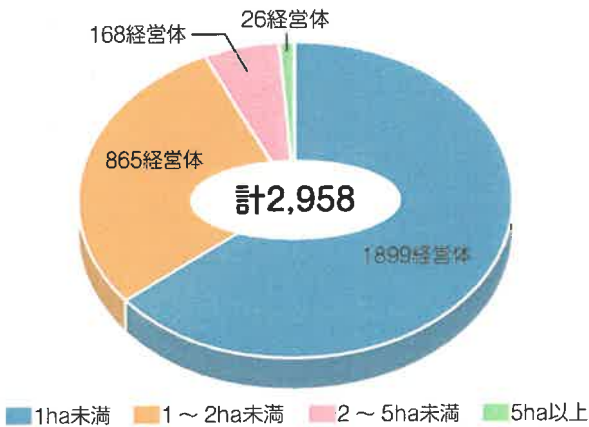


南あわじ市の農業

全国有数の野菜産地「南あわじ市」

南あわじ市は淡路島の南部に位置しています。温暖で肥沃な三原平野等、風土に恵まれているため、水稲と野菜（たまねぎ、葉菜類等）を組み合わせた多毛作農業を中心とした一次産業が盛んで、特にたまねぎとレタスについては、全国有数の産地となっています。

【経営耕地面積規模別農業経営体数】



【農産物販売金額規模別経営体数】



【主な農産物の作付面積】

冬レタス

順位	市町村名	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
1	南あわじ市 (兵庫県)	797	20,800	20,100
2	観音寺市 (香川県)	468	10,100	9,640
3	坂東市 (茨城県)	449	10,300	9,780
4	雲仙市 (長崎県)	337	13,900	12,300
5	久留米市 (福岡県)	334	5,650	5,480

春レタス

順位	市町村名	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
1	坂東市 (茨城県)	549	15,400	15,000
2	南あわじ市 (兵庫県)	298	6,740	6,490
3	結城市 (茨城県)	195	5,450	5,310
4	塩尻市 (長野県)	183	7,580	7,410
5	境町 (茨城県)	182	5,110	4,990

たまねぎ

順位	市町村名	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)
1	北見市 (北海道)	3,830	239,200	227,600
2	富良野市 (北海道)	1,480	83,700	78,400
3	訓子府町 (北海道)	1,400	101,300	96,400
4	南あわじ市 (兵庫県)	1,330	83,400	78,400
5	白石町 (佐賀県)	1,330	85,600	80,000

その他

- ・秋冬白菜 作付面積：236ha (全国4位)
- ・春キャベツ 作付面積：134ha (全国5位)
- ・冬キャベツ 作付面積：128ha (全国8位)

※農林水産省市町村別統計 令和元年産野菜（葉茎菜類）より

日本農業遺産認定

令和2年度に「南あわじ地域における水稲・たまねぎ・畜産の生産循環システム」が日本農業遺産に認定されました。農地が少なく、水に恵まれない「島という環境」で発達した高度な水利システムを基盤とした、水稲とたまねぎの二毛作栽培と耕畜連携を利用した循環システムが確立されています。



↑水稲とたまねぎ小屋



南あわじ市農業の1年

南あわじ市では、夏には水田風景が広がり、秋にはその水田がたまねぎやレタス、白菜などの畑となり、ほぼ1年を通して農業ができる非常に魅力的な農業地帯です。

たまねぎは、稲刈りが終わり、11月中旬から12月に定植し、4月～6月にかけて収穫します。収穫後は水稲の準備が始まります。

たまねぎ

柔らかく、甘みが強いのが特徴で、“淡路島たまねぎ”としてブランド化もされています



多毛作栽培



レタス等の葉菜類



水稲

経営モデル1 (新規就農から6年目の夫婦)

レタス	100a
たまねぎ	60a
売上	950万円
経費	500万円
農業所得	450万円

経営モデル2 (新規就農から6年目単身)

レタス	120a
売上	550万円
経費	300万円
農業所得	250万円

経営モデル3 (認定農業者)

水稲	180a
たまねぎ	150a
レタス	50a
売上	1,380万円
経費	740万円
農業所得	640万円

南あわじ市では
野菜のみならず、
果樹や花き、畜産
も盛んです。



畜産



びわ



かんきつ類



赤菊





南あわじ市で農業を始める前に…

南あわじ市で就農するためには、以下のプロセスを踏んで独立を目指すことになります。一見遠回りのように見えますが、農業を生業にするためには一番の近道です。

南あわじ市では、以下のプロセスを完遂し、また、南あわじ市の特産の淡路島たまねぎやあわじ島レタス等の生産現場で活躍できる方を求めています!!

なぜ南あわじ市？

情報収集と イメージづくり

あなたが「南あわじ市で」農業を始めたいと考えたきっかけは何ですか？農業を始めたい理由、そして、南あわじ市でなければならない理由を明確にしましょう。

農業を始めるには、

- なぜ農業をやりたいのか
 - どの地域でどんな農業をやりたいのか（水稻、野菜、施設園芸、畜産など）
 - 住居はどうするのか
 - 農地や農業用機械・施設はどうするのか
 - 必要な資金は十分確保できるか
 - 家族の同意は得ているか
- 等、多くの検討事項があります。

まずは、ひょうご就農支援センターのホームページのチェックや、新規就農関係の相談会に参加する等して情報収集をした上で、目指す農業経営のビジョンをイメージしましょう。

就農相談

目指す農業経営のビジョンが見えたら、就農相談会（月1回・予約制）に参加いただき、農業経営のビジョンをより明確化するのと同時に、具体的な制度等の情報を集めましょう。

研修、農業体験 インターンシップ等

農業生産や経営の基本的な知識を習得するために、研修に参加するとともに、

- 農家として生活していくための適性はあるか
- 農作業に従事するための体力はあるか
- 目指す農業経営のビジョンを実現できるか
- 地域の人々や生活様式との相性は良いか

等、本格的に農業に従事する前に思い描く農業のイメージとのすり合わせを行うために、「お試し期間」として、農業体験やインターンシップに参加しましょう。

雇用就農

インターンシップ等を通じて就農するための本格的な準備ができたなら、親方農家のもとに雇用就農します（詳しくは次頁）。賃金を得ながら、親方農家から農業のノウハウを取得するとともに、地域の農業者との交流を深めます。

独立就農

2～3年程度の雇用期間を経て、農業に関する知識や技術を向上させたのち、いよいよ独立就農となります。独立就農後は、次世代を雇用できる受け皿となれるよう、経営規模の拡大等を目指していただければと考えています。



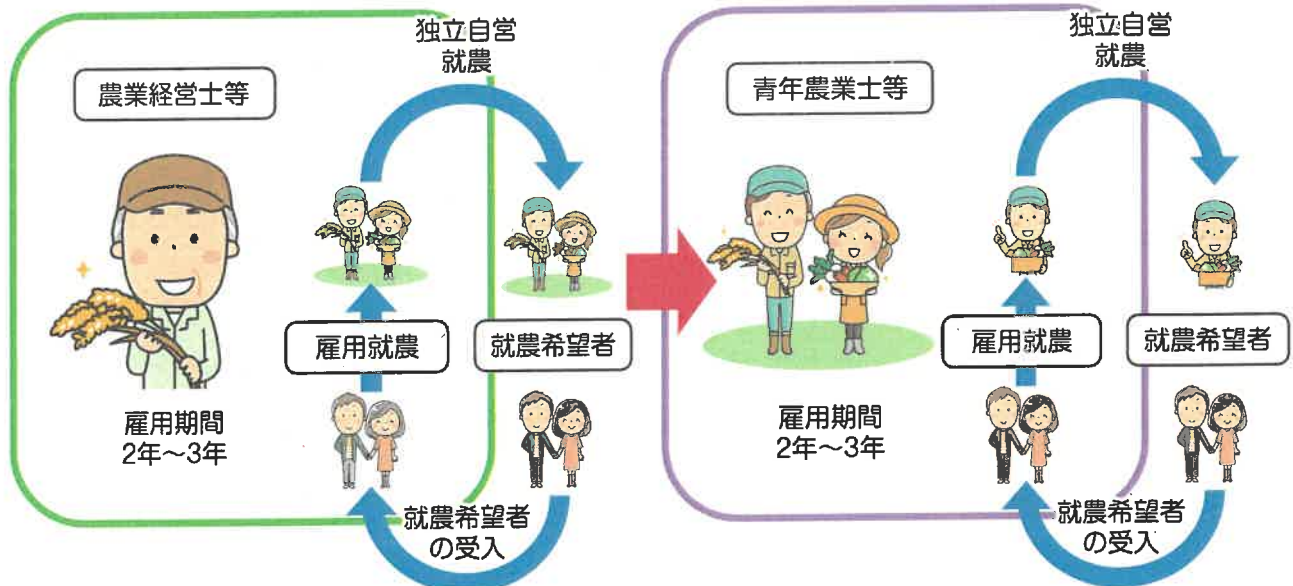


雇用就農から独立・自営就農へ!

知らない土地へ移住して農業という職に就き「稼ぐ」ためには、住む場所のほか農地や農業用機械・施設等も必要になります。また、地域の農業者との付き合いも非常に重要で、日常のあいさつはもちろん、地域で行う草刈りや水路掃除等の共同活動に積極的に参加していく必要があります。

そこで、南あわじ市では親方制度により、雇用就農して数年後に独立するという仕組みを構築しました。

親方農家に雇用されることで、給与支払いを受けながら、農業のノウハウを得ることができ、また、雇用期間中に地域の方と知り合いになることで、独立後に農地や農業用機械・施設を提供してもらえらるチャンスが増えるという仕組みです。



親方農家さんの元で雇用就農

独立・自営就農

就農・定着応援プランを活用した就農 ～南あわじ市市三條集落の事例～

平成30年度より、兵庫県が集落による「地域主導型就農・定着応援プロジェクト」をスタートしています。

南あわじ市の市三條集落では、平成30年12月に「就農・定着応援プラン（以下、プラン）」を作成し、就農希望者が雇用就農を経て、最終的に集落で独立就農するためのサポートを行っています。プランに示されている支援計画（案）としては、雇用期間1年目にグループ内の複数の農園での経験、2年目にほ場1まちの管理、3年目に自分自身で作付計画及び損益計算書を作成することとなり、これらの経験を積んだのちに、独立就農することになります。

就農希望者にとっては、農業のノウハウを得ることができるだけでなく、雇用期間中に地域農業者との交流が生まれるため、独立就農後も、空き農地や農業用機械・施設等に関する情報をいち早く入手できるといったメリットがあります。

さらに、集落にとっても、新しい担い手を取り込むチャンスになるため、地域農業を守っていくことにつながります。



(左)市三條集落の親方農家 豊田公隆さん
(右)マイナビ農業で「就農・定着応援プラン」を見て移住・就農した藤本誠児さん



「ターン」就農者の声

親方農家のもとでの雇用就農を経て、独立就農へ

藤本 誠児さん

出身地：大阪府

職業：農業

移住年：2020年



私は就農前までは大阪で印刷会社の営業職をしていました。しかし、誰かが企画し作ったものを紹介し、お客様に販売するだけで、あまり仕事に面白みが見出せませんでした。

そこで、「以前から興味があった食に関する仕事」「自分が作ったものを自分で売りたい」という2点から、就農する事を決めました。

現在は南あわじ市内の6件の親方の元で研修を重ねながら、自分の引き出しを増やすために、皆さんから色々な知識や経験談をインプットしています。

今後は研修で得た知識とスキルをフル活用し、自身でも南あわじ市の特産であるたまねぎの栽培と、これから農業を始めたいと思っている方々のお手本となるような農業経営者になるのが目標です。

農業は体力的にも大変な事は多いですが、本当にやりがいのある仕事だと思います。

そして、農業は一人で完結するものではなく、地域の皆さんと共に守っていくものだと感じています。

「その地域で農業をさせていただいている」いつまでもその気持ちは持ち続けながら新しい事にも挑戦して行きます。

仕事と趣味の両立を求めて

淡路島で農業という選択肢

私は大阪で団体職員事務として働いていましたが、仕事とプライベートの両立ができていなくて、定年までそこで勤める事のイメージができなかったため、南あわじ市で農業を始めました。

南あわじ市を選んだ理由は京阪神から近く野菜の生産が盛んだったため農業をするうえでとてもやりやすそうと思ったからです。

独立後に野菜がうまく作れずに生活に困ることは避けたかったので、南淡路農業改良普及センターへ行き、そこで紹介してもらった親方農家のところで3年間研修生として農業を学びました。

研修中は農業ならではのきつい事はありましたがそこで学んだ甲斐あって独立した1年目の1作目から上手くスタートを切る事ができました。

独立後に、収穫した野菜は研修先のところにも出荷できたり、研修中に会った人達が手伝いに来てくれたりと、徐々に淡路島に馴染んできたと思えます。

農業という仕事は会社員ではなかなか味わえない事やライフワークバランスが取りやすくてとてもいい仕事だと思います。

今井 博次さん

出身地：大阪府

職業：農業 (2018年に就農)

移住年：2015年



伊東 蒼梧さん

出身地：大阪府

職業：農業

移住年：2015年

淡路島での大学生活から就農へ

私は高校卒業後淡路島の大学に入学することになり淡路島に移り住みました。入学直前まで家が決まっておらず、相談したところ八木馬回の空き家で大学生のシェアハウスをしてみないかと誘われ、淡路島での大学生活をはじめました。

自然豊かな場所でたけのこ掘りや農業体験、地域の行事の参加など、いろいろな経験をさせてもらいました。

失敗や課題が見える農業はおもしろく、お米作りから始まった農業体験は、大学4年生に上がる頃には就活を忘れるほど熱中し、卒業後も農業をしたいと思い新規就農をしました。

新規就農をするにあたっては、大学時代からお世話になっている馬回地域の方々が快く受け入れてくださり応援して下さったお陰で大変な思いをすることなく就農できたと感じています。

今後は野菜作りだけではなく八木馬回という土地を活かした事に挑戦し、地域貢献にもつながるような事をしたいと考えています。



お父さん、お母さんが作った野菜っておいしい！

夫は移住前、朝早くから夜遅くまで働き、家族との時間がほとんどできていませんでした。

「家族との時間を大切にしたい」

「学生時代から興味があった『食』に関わるモノ作りがしたい」という思いで、農業へ転職しました。

私は、以前から淡路島のような自然が豊かで、野菜をはじめとする食材に恵まれているところで子育てがしたいと思っていました。

夫は農業法人に採用され、私も南あわじ市地域おこし協力隊に採用された縁で、南あわじ市に移住しました。

農業という経験のない職業をやっているのか、地元の人に受け入れられるかなどの不安もありましたが、地域のイベントへの参加などをきっかけに地元の人との仲も深まり、今では、家族みんなで淡路島の生活を満喫しています。

地域おこし協力隊を卒業してから、任期中の経験を生かそうと、私自身も「農家さんになりたい」と思い、野菜を育て始めています。

* 地域おこし協力隊では、農畜水産物直売所美菜恋来屋（みなこいこいや）で活動していました。

大田 志穂さん

出身地：大阪府

職業：農業

移住年：2016年





担い手を育成するための取組

【女性農業者向けの支援】

南あわじ市では、農業従事者の半数を女性が占めているため、女性農業者を支援する様々な取組を行っています。



←女性農業者同士で意見交換等を行う南あわじ市農業女子フェス

→講師を呼んで営農等に関する講座を設けている女性農業者教室



【担い手確保のための支援】

新規就農支援体制を確保するために、就農希望者への情報提供や、受け皿となる「農業経営者」や「地域」が就農希望者を受け入れるための環境整備等に係る取組を支援しています。



←就農セミナーへの出展

→就農希望者の受け皿となる農業経営者向けの研修会の開催



主な就農支援制度

支援頼みにならないよう、自己資金をしっかりと確保したうえで、就農しましょう。

<p>青年等就農 計画認定制度</p>	<p>新たに農業を始める方が、農業経営に関する5年間の計画を作成し、その計画に沿って農業を営む方を市が認定する仕組み。計画が認定された方を認定新規就農者といい、各種支援の対象となります。</p> <p>【対象となる支援例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年等就農資金 ・経営所得安定対策（ゲタ・ナラシ対策）ほか
<p>青年等就農資金</p>	<p>新たに農業経営を開始する方が、農業用施設や農業用機械を導入する際に利用できる無利子の融資制度。</p> <p>融資限度額：3,700万円（借入全期間にわたり無利子） 返済期間：17年以内（据置期間5年以内）</p> <p>【条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定新規就農者であること

※補助事業等については内容が変更になっている場合がありますので、右記の農林水産省のホームページ等をご参照いただくか、市役所まで直接お問い合わせください。



農林水産省HP
「新規就農の促進」



ひょうご就農支援センターHP
「支援施策」



就農に関する相談窓口

南あわじ市農林振興課

〒656-0492
兵庫県南あわじ市市善光寺22-1
Tel：0799-43-5223 Fax：0799-43-5323
Mail：nourin@city.minamiawaji.hyogo.jp



南あわじ市HP

南淡路農業改良普及センター経営課

〒656-0442
兵庫県南あわじ市八木養宜中560-1
Tel：0799-42-0649 Fax：0799-42-4885

田舎暮らし(南あわじ市)で暮らす8箇条

「田舎暮らし」は、のんびりと自由な暮らしができると思いを馳せるのも楽しいものですが、交通インフラや娯楽施設などはあまり整備されておらず、実際は都会の生活と勝手が違うことがたくさんあり、イメージだけで移住されると理想と現実のギャップに困惑されることと思います。

しかし、田舎では、都会にはない豊かな自然や豊富な食材、伝統文化や歴史が多く残っており、心豊かな癒しの時間を過ごすこともできます。

そこで、南あわじ市での田舎暮らしを始める前に、知っていて欲しいことを「田舎暮らし8箇条」としてまとめてみました。

【南あわじ市で暮らす 田舎暮らし8箇条】

第1条 まずはご相談を！

どの地域で、どんな暮らし方をしたいのか、生業はどうするのか、などのアウトラインが決まったら、まずは相談してください。その際、行政などの公的機関、NPOや相談窓口、移住の先人たちにお話を聞き、本音を知ることも参考にして下さい。

第2条 田舎暮らしに自動車は必須

淡路島には電車が存在しないため、便利な暮らしをする上で自動車は必須となります。

路線バスや市のコミュニティバス「らんらんバス」が走っていますが、大都市のような充実した路線数やダイヤでないため、自分時間で行動する場合は自動車が必須です。

第3条 田舎ならではの仕事は本気で！

南あわじ市には農林水産業など田舎ならではの仕事が多くあります。「田舎で農業をしたい」場合、本格的に農業をするなら、まずは南あわじ市農林振興課やひょうご就農支援センターへの相談をおすすめします。また、漁業など自然を相手にした仕事も日本の将来のためにぜひ検討してみたいかがでしょうか？

第4条 仕事を決めてからの移住が堅実

近年、淡路島は県下でも高い有効求人倍率で推移しており、中でも観光業や医療、介護など特定業種の求人が多い傾向にあります。また、期間を限定した求人やパートタイムの求人が比較的多く、いくつかの仕事を掛け持ちすることも1つの方法です。移住前にハローワーク等で希望に合う求人の有無について調べておきましょう！

第5条 物件探しは現地に足を運びましょう！

物件を決める際、「百聞は一見に如かず」のことわざどおり、現地に足を運び、自分の目で見て気に入った物件を探し、周りの環境や地域の事を知った上で決めるのが賢明でしょう。インターネットに掲載されている不動産物件を見ただけで決めることは極力避けましょう。

第6条 家庭菜園は30坪で充分

物件探しの際、畑がついていることを条件にあげられる方がいらっしゃいます。高齢化により休耕している田畑も増えてきていますので、まずは、地域に溶け込んでから休耕している田畑の一部を借りても遅くありません。家庭菜園は30坪(100㎡)が目安です。

第7条 田舎は人との付き合いが肝要

田舎は都会とは全く異なり、近所を始め、濃密な人間関係があります。「山の中で一人暮らし」は、ほぼ不可能です。地域によって「草刈り」などの共同作業の出役がある地域も数多くあり、地区費など集金がある場合もあります。地域の行事はできるだけ参加するようにしたいものです。

第8条 お試しで暮らそう！

地域・集落によって雰囲気や移住者に対する受け入れ方は大きく違います。最初から永住の地と決めてしまわず、まずは週末滞在や二地域居住、またはアパートや借家に住み、希望のライフスタイルを実現できる地域を時間をかけて探すこともおススメの方法です。

あなたの“あわじ”暮らしを応援します！

あわじ暮らし総合相談窓口（県受託者：NPOあわじFANクラブ）

「自然豊かな環境でのびのびと子どもを育てたい」「農業による生活を再現させたい」など一人ひとりが希望するライフスタイルに応じた「あわじ暮らし」の実現をサポートします。

淡路島（南あわじ市・洲本市・淡路市）に移住希望の方は、個別相談も実施しています。

問：あわじ暮らし総合相談窓口（NPOあわじFANクラブ）

〒656-0002 兵庫県洲本市中川原町中川原92-1

TEL：090-1247-1589

<https://awajigurashi.com/>

開設時間：9：00～17：00（面談は事前予約が必要です）





移住に関する支援

ふるさと創生課 (0799-43-5205)



←詳しくはこちら

賃貸住宅に住む

○移住支援補助金・奨励金

淡路島外から移住（UJターン）する意思のある世帯に対して、お試し住宅に代わる民間賃貸住宅への居住に係る初期費用または移住に係る費用の一部を補助します。また、定住後経過年数に応じて奨励金を交付します。

補助対象費用（移住支援補助金）及び金額（補助率10/10）		お試し移住者	移住者
初期費用	賃貸借契約するにあたり要した礼金、仲介手数料	20万円(上限)	20万円(上限)
引越費用	引越業者または運送業者に委託し支払った費用	5万円(上限)	5万円(上限)
レンタカー費用	道路運送法上の許可を受けたレンタカー業者に支払った費用（1ヶ月分）	5万円(上限)	—
移住奨励金		—	5万円(移住後1年経過) 20万円(移住後2年経過)
合計（上限）		30万円	50万円

◆交付要件

- 申請者が学生でないこと
- 市税を滞納していないこと ほか

※対象世帯ならびに家賃月額には別途要件があります



家を新築・購入する

○マイホーム取得事業補助金（事業期間：令和7年3月まで）

淡路島外から転入し、居住を目的として住宅を建築または購入される方へ、住宅取得費用の一部を補助します。（転入等要件あり、補助率1/3）

基本補助金	新築住宅、建売住宅	200万円（上限）
	中古住宅（市の空き家バンク登録）	100万円（上限）
加算補助金	中学生以下の子どもがいる場合	1人につき30万円

○多世代同居・近居支援事業補助金（事業期間：令和5年3月まで）

親世帯と子世帯等、多世代で同居・近居*をするために住宅を取得またはリフォームを予定する方に対し、費用の一部を補助します。（上限100万円、補助率1/3）

※同居…1つの住宅に居住すること 近居…同一単位自治会の区域内に居住すること

	申請者	補助可能な方
世帯状況	すでに多世代で同居を行っている方	申請日前1年以内に世帯員が1以上増加した（多世代家族で同居を継続する場合に限る）
	すでに多世代家族で近居をしている方	新たに同居を行う
	多世代同居も近居も行っていない方	多世代で同居または近居を行う

◆交付要件

- 取得またはリフォーム等を行う所有（予定）者であること
- 自治会に加入しているまたは加入する意思があること
- 申請日から遡って過去1年以内に多世代で同居や近居を行っていないこと
- 3年以上同居や近居を続ける意思があること
- 多世代で同居・近居をしようとする全ての方（18歳未満を除く）の所得の計を、当該人数で割った額が230万円以下であること ほか

空き家を利用する

○定住促進空き家活用支援事業（事業期間 令和5年3月まで）

空き家バンクに登録された空き家を改修し、活用する方に対して工事費等の一部を補助します。
（30万円以上の工事のみ）

	島内在住者	島外在住者	補助率
改修工事	100万円(上限)	100万円(上限)	1/3
家財道具等の処分費用	5万円(上限)	5万円(上限)	
登記に関する費用	10万円(上限)	10万円(上限)	10/10
引越しに要する費用	-	10万円(上限)	
合計（上限）	115万円	125万円	

○空き家活用支援事業／県

空き家の有効利用や地域の活性化を図るため、一戸建ての空き家を住宅や事業所、地域交流拠点として活用する場合の改修工事費等の一部を補助します。

対象工事費	住宅型		事業所型 (一般)	対象工事費	地域交流 拠点型
	一般世帯	若年・子育て世帯 UJIターン世帯			
100万円以上 150万円未満	40万円	60万円	-	100万円以上 200万円未満	75万円
150万円以上 200万円未満	60万円	85万円	60万円	200万円以上 400万円未満	150万円
200万円以上 250万円未満	75万円	110万円	75万円	400万円以上 600万円未満	250万円
250万円以上 300万円未満	90万円	135万円	90万円	600万円以上 800万円未満	350万円
300万円以上 350万円未満	100万円	150万円	110万円	800万円以上 1,000万円未満	450万円
350万円以上 400万円未満			125万円	1,000万円以上	500万円
400万円以上 450万円未満			140万円	※学生シェアハウス（住宅型）、UJIターン （事業所型）もございませう。別途県へ お問合せください。 【問い合わせ先】 兵庫県住宅政策課 TEL:078-341-7711	
450万円以上			150万円		

商工観光課 (0799-43-5221)



←詳しくはこちら

○起業支援事業補助金

市内に居住し、かつ、市内に起業に係る事務所、店舗等を設置する際に要する費用の一部を補助（上限150万円、補助率1/2）

基本補助金		100万円
加算補助金 (上限50万円)	女性による起業	+30万円
	移住者による起業	+20万円
	空き家利用による起業	+20万円
	離島辺地での起業	+20万円

○淡路瓦屋根工事奨励金

淡路瓦を利用した住宅の建築主に対して奨励金を交付します（補助率1/5）。屋根面積が20㎡以上の住宅で、新築または葺替（8割以上）した方。

屋根工事110㎡未満：上限10万円、110㎡以上：上限15万円、150㎡以上：上限20万円

※各補助金には他にも個別要件がございますので、詳しくは担当課までお問い合わせください。

子育てにやさしいまち

出逢い

ハッピーマジックの会

独身男女の
交流の場をサポート
イベントの開催、
縁結び相談

結婚

新婚世帯家賃補助

民間賃貸住宅の家賃を月額上限

1万円または**5千円**助成

特定不妊治療費助成

治療1回あたり上限**10万円**
助成(県助成に上乗せ)

妊娠・出産

妊婦健診費助成

健診回数14回以下に対して、
上限98,000円の助成券発行

出産祝金

第1子・第2子の出産**3万円**
第3子以降の出産**10万円**
を祝金として支給

子育て情報



毎年発行のハンドブックで
情報チェック!



子育て相談

子育て支援コンシェルジュ

子育ての悩みや困りごとについて、
コンシェルジュと一緒に考え、
悩みの解決や一人ひとりに合わせた
子育て支援サービスの情報
をお伝えします

子育て応援

子育て応援優待カード

満18歳未満の子どもを養育して
いる家庭に協賛店の各サービス
が受けられるカードを発行



家族が笑顔で暮らせるように
南あわじ市で一緒に
子育てを楽しみませんか

子どもをのびのびと
育てられる環境の中
で、子育ての楽しさを
実感しています

出逢いから子育て サポートします

島外からの
移住保育士を
応援します

一時金 **30万円**

家賃補助 **月額 5万円**



就学～

入学祝金

小学校の第1学年に新入学時に

1万円の祝金を支給

学童保育

小学1～6年生の児童を対象に
市内11校区で開設。平日の
月～金曜日18時まで
できます



学生・社会人

通勤・通学者

交通費助成

高速バス等利用による島外通勤・島内
外通学者に交通費の一部
(20～30%)の助成



地域の応援

ファミリー・

サポート・センター

会員登録でさまざまな用事の時、
子どもの一時預かりを利用する
ことができます



医療費

0歳～中学3年生まで

通院費・入院費 **無料!**

※所得制限あり

ゆめるんセンター

(子育て学習・支援センター)

0歳～就学前のお子さま対象に親子
の交流や子育て相談ができる
子育てひろば。常設の園庭、
絵本や遊具が充実したプレイルームで
遊ぶことができ、年齢別、季節ごとの
イベントも多数開催



ゆめるん

南あわじ市子育て応援シンボルキャラクター
南あわじ市で「松帆銅鐸」が発見されたことから、ゆめるんも弥生時代の衣装「貴頭衣」にチェンジ!



ウェルカムフォトコーナー
(市役所内)

来庁や戸籍届出の際、記念撮影できます。

吉備国際大学農学部

南あわじ市には吉備国際大学農学部があり、南あわじ全体をフィールドとして農業を学ぶことができます。

また、大学内には“植物クリニックセンター”が設置されており、たまねぎやレタスのほか、イネや各種野菜、果樹、花きなどの病原菌について、これまでの豊富な経験を生かして薬剤耐性を診断してくれます。

農家にとっても心強い機関が身近にあります。



吉備国際大学就農支援事業



吉備国際大学では将来の職業に“農業”という道を考えている学生に対して、就農支援を実施しています。

- インターンシップ……農家の元で数日間、農業体験をすることができます。
- 各種講座の開催……新規就農者から就農までの苦労話や農業のやりがい、移住者から田舎暮らしのお話を聞くことができます。
- きびこく女子活動……女性の就農に関する情報が乏しいため、兵庫県下の女性農業者を訪ね、就農の経緯等を聞くことができます。

兵庫県最大級 農畜水産物直売所 美菜恋来屋

(みなこいこいや)

南あわじ市には大型直売所があり、少量多品目で野菜を栽培される方についても、直売所で販売することができます。

入会金：1万円 年会費3千円
Tel：0799-43-3751



淡路ファームパーク イングランドの丘

湖と美しい緑に囲まれ自然とふれあえるイングランドエリアでは、羊とのふれあいや、野菜の収穫体験も楽しめます。ロックガーデンや大温室など世界の花が咲き誇るグリーンヒルエリアでは、世界のウサギと出会えるラビットワーレンや人気者のコアラなどかわいい動物に出会えます。南あわじ市民には、入園料無料となる年間パスポートが発行されます。

Tel：0799-43-2626



南あわじの四季

春



・うずしお観潮船

鳴門海峡は世界三大潮流の一つに数えられ、「渦潮」は世界に誇るべき自然遺産です。渦が最も大きくなる春には直径約30mにもなります。咸臨丸・日本丸で渦潮の真上まで行き、迫力のある渦潮を体験してみませんか。Tel: 0799-52-0054 (うずしおクルーズ)

夏



・阿万海水浴場

マリンブルーの海と白くなめらかな砂浜が特徴。夜には海ほたるの青白い光がただよいます。

Tel: 0799-43-5221
(商工観光課)

秋

・慶野松原の夕日

古くは万葉集にも詠まれ風光明媚で知られる景勝地。数万本の松林に囲まれた2.5kmに及ぶ美しい砂浜は、「日本の渚百選」「快水浴場百選 特選」「日本の夕陽百選」に選ばれています。四季を問わず見られる夕日は、特に秋から冬がおススメです。

Tel: 0799-43-5221 (商工観光課)



冬

・灘黒岩水仙郷

島の南部に位置する標高608mの諭鶴羽山から海に続く45度の急傾斜地に、約7haにわたって500万本もの野生の水仙が咲き誇り、12月下旬から2月下旬にかけて白い花と甘い香りで包まれます。

風にそよぐ様は壮観で、淡路島の冬の風物詩となっています。

Tel: 0799-56-0720

(灘黒岩水仙郷：季節限定)



MAP 南あわじ市の紹介

市内には、学校や保育所・幼稚園が多くあり、充実した子育て環境が整っています。また、総合病院や診療所もあり、大型スーパーや商業施設も多数あります。普段の買い物にとっても便利です。

- 甲 病院
- 乙 図書館
- 文 大学
- ◎ 高校
- × 小・中学校
- ◎ 幼稚園
- ◎ 保育所
- ◎ 子ども園



南あわじ市は日本のココにあります



南あわじ市へのアクセス

- 飛行機** 東京(羽田空港)から神戸空港まで約70分
東京(羽田空港)から徳島空港まで約70分
- 自動車** 大阪から西淡三原ICまで約100分、神戸から西淡三原ICまで約65分、神戸空港から西淡三原ICまで約80分、徳島空港から西淡三原ICまで約40分
 - 本州からは、垂水JCT経由(神戸淡路鳴門自動車道)⇒明石海峡大橋⇒西淡三原IC(または淡路島南IC)から各地へ
 - 四国からは、神戸淡路鳴門自動車道⇒大鳴門橋⇒淡路島南IC(または西淡三原IC)から各地へ
- 高速バス** 神戸三ノ宮から陸の港西淡まで約80分、福良まで約100分
 - 神戸三ノ宮、高速舞子から乗車。東京・関空・枚方・名古屋からは志知(バスストップ)で降車
- 旅客船** 明石～岩屋、土生～沼島の各線に乗船

お問い合わせ

南あわじ市役所

Tel: (0799)43-5001
Fax: (0799)43-5101

〒656-0492 兵庫県南あわじ市市善光寺22番地1
南あわじ市HP <http://www.city.minamiawaji.hyogo.jp>

●移住・定住に関すること

総務企画部ふるさと創生課(南あわじ市定住促進協議会)
Tel: (0799)43-5205 Fax: (0799)43-5305
E-mail: furusato@city.minamiawaji.hyogo.jp

南あわじ市移住支援サイト(住みニコ)
<https://suminiko.jp>

住みニコ

検索

住みニコ



●就農に関すること

産業建設部農林振興課(南あわじ市就農支援連絡協議会)
Tel: (0799)-43-5223, Fax: (0799)-43-5323
E-mail: nourin@city.minamiawaji.hyogo.jp

南淡路農業改良普及センター

Tel: (0799)-42-0649

※本冊子に掲載されている情報は、特に表記がない場合、2021年11月1日時点での有効な情報です。情報は変更となる場合がございますので、2021年11月発行最新の情報や詳細についてはお問い合わせください。